資料 2

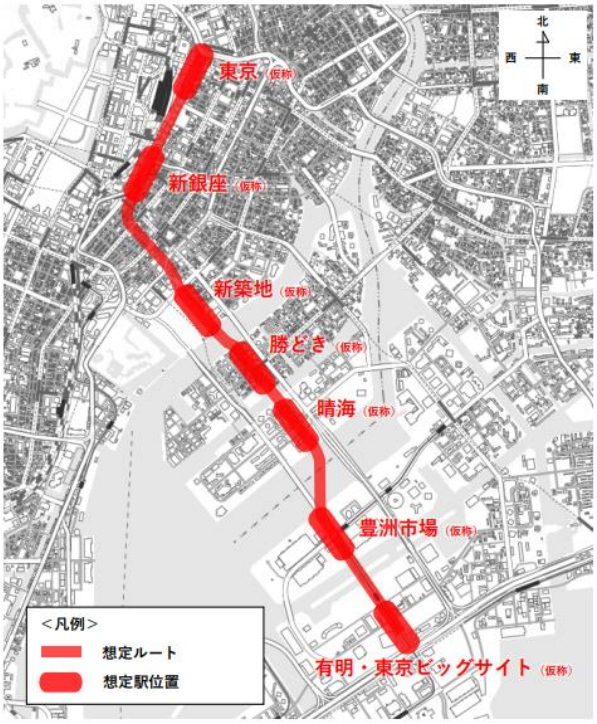
令和６年１０月１６日
都市整備部都市交通輸送計画担当

都心部・臨海地域地下鉄の進捗状況について

１　都心部・臨海地域地下鉄の概要

本路線は、都心部と臨海部を結ぶ路線で、区内には豊洲市場駅（仮称）と有明・東京ビッグサイト駅（仮称）の設置が想定されている。

令和４年１１月に、国や東京都などで構成する「都心部・臨海地域地下鉄構想　事業計画検討会」（以下「事業計画検討会」という。）から事業計画案が公表されるとともに、現地調査や検討が進められている。



出典：都心部・臨海地域地下鉄構想　事業計画検討会「事業計画案」（令和４年）

【概算事業費】

約4,200～5,100億円（税込）

※事業主体の保有設備等により増減

【実現を目指す時期】

東京ベイｅＳＧまちづくり戦略 2022 において、「2040 年までの実現を目指す取組（取組の特性により一部未着手・制度構築等を含む。）」とされている。

２　都心部・臨海地域地下鉄に関する主な経緯

R3. 7	交通政策審議会答申第 371 号で「事業化に向けて関係者による検討の深度化を図るべき」と示される
R3. 9	東京都が、事業計画検討会を設置 構成：学識経験者、国、東京都、鉄道・運輸機構、ＵＲ都市機構
R4. 11	事業計画検討会が、事業計画案を公表
R6. 2	東京都が、鉄道・運輸機構（整備に関すること）、東京臨海高速鉄道株式会社（営業に関すること）の３者で事業計画の検討を行うことで合意したことを公表
R6. 3	区が、「江東区臨海部都市交通ビジョン」を策定

３　都心部・臨海地域地下鉄　駅とまちとの連携に関する検討の場

地下鉄新駅とまちとの連携等について検討を深度化するため、東京都や関係区（千代田区・中央区・江東区）、ＵＲ都市機構の部長級で構成する「都心部・臨海地域地下鉄　駅とまちとの連携に関する検討の場」が設置され、令和６年８月に第１回が開催された。

本検討の場において、本路線の整備に関することや新駅と沿線のまちづくりとの連携について検討することとなっている。

４　今後の取組み

「都心部・臨海地域地下鉄　駅とまちとの連携に関する検討の場」等を活用し、国や東京都、他自治体の動向を把握するとともに、海の森へのルートなど臨海部の交通需要増加への対応や回遊性の向上を図っていく。

５　その他

中央区では、地元団体等を含んだ「都心・臨海地下鉄新線推進協議会」が、平成３０年度より「都心・臨海地下鉄新線推進大会」を開催している。

今年度は１１月１８日の開催が予定されており、沿線自治体である本区は、本大会への出席を検討している。